

令和5年度 事業報告

我が国においては、人口減少、少子高齢化が進展し、人生百年時代を迎えた今、誰もが生涯現役で活躍できる社会の実現が求められています。

そのような中、シルバー人材センターは、地域の日常生活に密着した就業機会を提供するなどにより、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持増進、ひいては地域社会の活性化と医療費や介護費用の削減などに寄与しているところです。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行するなど、ようやく改善の兆しが見られましたが、まだコロナ前の状況には及ばないなど引き続き厳しい状況が続いております。

また、令和5年10月より消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入され、シルバー人材センターの財政負担が増加するなど大きな課題に直面しております。

そこで、令和5年度は、コロナ禍の影響からの完全脱却を目指した「就業機会の拡大と会員の拡大」、安全はすべてに優先するという理念に基づいた「安全・適正就業の推進」、会員の負担増にならない万全な「適格請求書等保存方式（インボイス制度）導入への対応」を最重点項目に位置づけし、それらの対策に重点的に取り組みました。

まず、「就業機会の拡大と会員の拡大」では、シルバー人材センターの仕事内容や魅力等を広くPRすることが効果的であることから、市内全世帯へのPRチラシの新聞折込みなど、PR活動の強化に取り組みました。さらには、北陸新幹線の開業に併せ、観光客誘致の関連事業へのセールス活動を積極的に取り組みました。

その結果、令和5年度の受注額（介護保険事業を除く。）は、請負・派遣を合わせて前年度比約0.5%微減の約7億9千万円でしたが、会員数については、令和5年度末の会員数は、前年度比131人増の2,271人となり、コロナ禍前の令和元年度末の会員数2,211人を超えました。なお、会員数の増加は、2年連続となります。

このように、コロナ禍の影響に対する取組は、着実に成果を上げており、令和6年度においても、引き続き、「就業機会の拡大と会員の拡大」を最重点項目として位置づけし、コロナ禍の影響からの完全回復を目指し、危機感を持って取り組んでまいります。

また、令和5年10月に消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入され、シルバー人材センターは多額の消費税を負担しなければならなくなり、国において、シルバー人材センター及び会員が負担増とならない包括的契約方式の導入が検討され、本県においてもワーキンググループにおいて検討を重ね、令和7年4月1日を目途に県下全域で包括的契約方式へ移行することが決定しました。

令和6年度においても、包括的契約方式への円滑な移行に向けて、会員・事業所等に丁寧な説明を行うなど積極的に取り組んでまいります。

そして、これらの取組を着実に進め、会員がいつも笑顔で生きがいを持って就業し、また、シルバー人材センターが会員相互の交流・親睦を通じて楽しい場所となれるよう、「働きたいと思う会員の方にしっかりと仕事が提供できる」環境整備を図るとともに、「入会したい・ずっと入会していきたい」と思える魅力あるセンターづくりに取り組んでまいります。

以下、令和5年度の事業実績状況について、報告いたします。

〔事業実績〕

契約金額	(請負・委任事業実績)	574,173,395円	(3.6% 減)
	(派遣事業実績)	208,145,721円	(8.8% 増)
	(訪問介護事業実績)	16,839,245円	(10.5% 減)
	(通所介護事業実績)	30,218,397円	(9.7% 減)
	(居宅介護事業実績)	11,575,516円	(3.8% 減)
	(介護予防・日常生活支援総合事業)	10,456,641円	(12.2% 減)
	合計	851,408,915円	(1.3% 減)
契約件数	(請負・委任事業実績)	6,094件	(3.2% 減)
	(派遣事業実績)	289件	(12.5% 増)
	(訪問介護事業実績)	55件	(1.9% 増)
	(通所介護事業実績)	37件	(23.3% 増)
	(居宅介護事業実績)	119件	(26.6% 増)
	(介護予防・日常生活支援総合事業)	92件	(3.4% 増)
	合計	6,686件	(2.0% 減)
就業率(派遣を含む)		76.3%	(3.7ポイント 減)
会員数		2,271人	(131人 増)
	内特別会員	1人	
	内特別正会員	60人	(10人 減)
賛助会員数		54団体	(増減なし)

1. 安全・適正就業の推進

シルバー人材センターの就業の基本は、会員が健康で安心して働き、事故のない就業であること、さらには、発注者から喜ばれ信頼を得られる誠実・丁寧な仕事をすることです。

しかしながら、最近、傷害事故及び賠償事故が多く発生していることから、「安全はすべてに優先する」という理念に立ち返り、安全就業の徹底に取り組みました。

その結果は、令和5年度目標の重篤事故0件は達成できたものの、傷害事故及び賠償事故は達成できませんでした。

このようなことから、令和6年度においても、引き続き、安全就業の徹底に取り組みます。

また、適正就業では、法令を遵守した適正就業の推進と、発注者から喜ばれ信頼を得られる誠実・丁寧な仕事となるよう、就業の質の維持・向上に取り組みました。

【事故件数の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	R5目標
重篤事故	1件	0件	0件	0件	0件	0件
傷害事故	7件	15件	18件	13件	10件	6件未満
賠償事故	7件	4件	5件	8件	6件	4件未満

(1) 安全就業の推進

- ① 受注時の就業条件の確認
 - 新規受注の際には就業条件を確認するとともに、職員が直接現場で確認しました。
- ② 安全就業の徹底と安全パトロールの強化
 - 総会の通知と一緒に「安全就業ハンドブック」、「安全啓発用のチラシ(ヒヤリハット体験談を含む)」を同封し、配布しました。
 - 毎月1日と15日に安全就業部会委員・適正就業部会委員と職員が組んで、チェックリストに基づいた安全パトロールを実施しました。
- ③ 職群班会議での安全就業講習の実施
 - 5/30にチェーンソー講習会を実施しました。(18名参加)
 - 10/24に植木班・草刈班合同の安全講習会(内容：危険予知訓練)を実施しました。
- ④ 安全運転対策の徹底
 - 3/6に安全運転講習会を実施しました。
- ⑤ 効果的なSMSの活用
 - 事故発生時、転倒防止、熱中症予防・大雪等の荒天に関して、随時SMSを送信し、注意喚起を行いました。
- ⑥ 転倒防止キャンペーンの実施

- 10/28 開催のふれあいまつりで、理学療法士による転倒防止に関する講習を実施しました。
 - SMS を通じて、就業前のラジオ体操を推奨しました。
 - 県連合作成の「転倒防止に関するチラシ」を、総会の通知時に、全員に配布しました。
- ⑦ ペナルティ制度の厳格な運用
- 安全就業部会内で、賠償事故に関してペナルティを科すべきかを検討しました。

(2) 適正就業の推進

- ① 適正就業ガイドラインに基づく適正な受注
- 「適正就業ガイドライン」について、課内で勉強会を実施し、徹底しました。
- ② 不適正な請負契約の是正
- 不適正事案のリストアップ、発注者訪問による契約是正の交渉を実施しました。
- ③ 就業交代制の推進
- 1 月発行のかわら版で募集を行い、2 月に面談会の実施・就業者の決定を行いました。
- ④ ワークシェアリングの推進
- 発注者及び会員に対して説明を行い、週 20 時間を超える案件のリストアップ、ワークシェアリングを実施しました。
- ⑤ 職業紹介事業の活用
- 2 件の職業紹介を行いました。

2. 就業機会の拡大

シルバー人材センターの受注額は、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍前の令和元年度と比較して大きく減少している状況でした。

そこで、令和 5 年度において、受注事業の回復を目指し、PR 活動の強化やセールス活動の強化をはじめとする受注額の回復策に積極的に取り組みました。

その結果、令和 5 年度の受注額（介護保険事業を除く。）は、請負・派遣を合わせて前年度比約 0.5%減の 7 億 8 千 2 百万円となり、令和 5 年度目標の 8 億 3 千万円を達成できませんでした。

このようなことから、令和 6 年度においても、引き続き、受注額の回復策に積極的に取り組み、コロナ禍の影響からの完全回復に取り組みます。

【受注額・就業率の推移】

(千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	R5目標
請負・委任事業	695,510	578,134	564,859	595,315	574,173	610,000
派遣事業	116,338	112,057	154,767	191,252	208,146	220,000
計	811,848	690,191	719,626	786,567	782,319	830,000
就業率	74.3%	69.6%	79.6%	80.0%	76.3%	80.0%

(1) PR活動の強化

① 市内全世帯へのPR

- 5/27にPRチラシ(A3版 普及啓発・会員募集、受注事業の内容と料金)を折り込みました。《仕事の受注：7件》

② 企業・団体へのPR

- 7月～8月にかけて、市内49公民館を訪問し、発注を依頼しました。《仕事の受注：1件、問い合わせ：1件》
- 12月に福井商工会議所議員懇談会でセンターをPRしました。《仕事の受注：2件》

③ 新聞・テレビ等によるPR

- 福井新聞ぷりん欄に、ワンコインサービスの記事を3回掲載しました。
- 福井新聞ぷりん欄に、やってみよ！ちょこっとJobの記事を3回掲載しました。
- ケーブルテレビ雑誌「けーぶるちゃん」に、福祉・家事、ワンコインサービス、育児支援の記事を掲載しました。

④ ホームページ・SNS等によるPR

- インスタグラムで、「あ・の・ね、」「家事支援」等の記事を、随時更新しました。
- 「出張託児」「あ・の・ね、」利用者にQRコードを配布し宣伝しました。

⑤ 会員によるPR活動

- かわら版で、会員に対して受注拡大の依頼を行いました。

(2) セールス活動の強化

① これまでの発注者へのセールス活動

- 6/16に、前年度発注のあった発注先約3,800件に対して、お礼の手紙を送付し、法人の顧客約430社には事務系の仕事の発注依頼チラシを送付しました。

- 8月に賛助会員を訪問して、新たに2件の加入がありました。
 - 8/8に市長要望を実施して、市に対して仕事発注の依頼を行いました。
 - 市の部・課を、理事長及び職員が訪問して仕事発注を依頼しました。
- ② 介護プランナーによるセールス活動
- 介護プランナーが、介護施設での補助業務の受注提案を行い、新たに2件の受注がありました。
- ③ 会員によるセールス活動
- かわら版を通じて会員にポイント制度の周知に努め、新たな仕事の開拓を行いました。
- ④ 退職予定者の、会員としての継続就業の推奨
- 各種団体や企業を退職する方を引き続き雇用したい企業や団体に、シルバー会員としての就業をPRしました。
- ⑤ シニア就職セミナー・面接会への参加

(3) しごとの質の向上・維持

シルバーの信頼性を高めるためには、完成度の高い仕事、礼儀正しい節度ある接客対応は不可欠です。研修会・講習会を開催し、就業の質とマナーの向上に取り組むとともに、就業の成果を点検するため、職群班グループ班長等のチェック及び顧客満足度調査を実施しました。

- ① 専門講師による清掃業務講習会の実施
- 6/2・6/3、保育園清掃従事者を対象に、講習会を実施しました。
《講師依頼先：(株)ダスキン 32人参加》
 - 7/27・9/26、子育てサポーターを対象に、調理実習を実施しました。
《7/27：20名、9/26：22名が参加》
 - 会員が講師となり、9月～10月、2月～3月に筆耕講習会（それぞれ6回）を開催しました。
 - 会員が講師となり、マナー講習会を実施しました。
- ② 就業成果のチェック
- 4月～6月に、JR森田駅の清掃点検を実施しました。
 - 剪定班で、9つの現場について、仕事の完成度チェックを実施しました。
 - 適正就業部会委員が、一人現場を中心に巡回点検しました。
 - 発注者から信頼される仕事を提供できるように、技能講習やマナー研修を実施しました。

(4) 新規事業の開拓

- ① 北陸新幹線福井駅開業に伴う就業の開拓

- 市おもてなし観光課や市観光協会に発注の依頼を行いました。

(5) 受注量の多い業務の体制整備

① 担い手不足分野の就業会員の育成

【技能研修】

- 植木スクール…9月～12月実施《6名参加》
- 除草…6名参加《2名就業定着》
- 障子・網戸張り替え…10名参加
- 福祉・家事初級…4回 38名参加
- 子育てサポーター…2回シリーズ 延べ24名参加

(6) 事務局体制の強化

① 介護保険事業所の強化

- 介護保険事業所を独立させて、課長級職員を配置しました。
- 福祉家事援助・育児支援サービス業務担当職員を介護保険事業所内に配置して、連携を強化しました。

② 職員の資質向上

- 10/11に高年齢者雇用推進セミナーに参加しました。《職員2名参加》

3. 会員の拡大

会員数については、昨年度から増加に転じておりましたが、令和5年度も入会者の確保や退会者の抑制をはじめとする会員数の回復策に積極的に取り組んだ結果、前年度比131人増の2,271人となりました。

このようなことから、令和6年度においても、引き続き、リーフレットの配布・各種イベントでのPR活動等を通じて会員の拡大に積極的に取り組みます。

【会員数の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	R5目標
会員数	2,211人	2,076人	2,057人	2,140人	2,271人	2,211人

入会者数	274人	194人	222人	343人	328人
退会者数	240人	329人	241人	260人	197人

(1) 仕事の提供の環境整備

① 就業機会提供のルールの徹底

- 入会面談時に、個別相談会を実施しました。
- 入会后1ヶ月・3ヶ月経過した未就業者に、積極的就業を斡旋しました。

《入会者 328 名のうち、255 名に就業機会を提供》

- ② 就業情報の提供と仕事相談会の開催
 - 毎週金曜日に、就業情報を更新しました。
 - 5月と8月にそれぞれ5会場で、仕事相談会を実施して、延べ27名が参加しました。
 - ふれあいまつりで、仕事の受付・相談コーナー、会員就業相談コーナーを設置し、17件の相談がありました。
- ③ 会員データの細やかな管理と活用
 - 会員登録時に、データを細やかに正確に管理することで、就業紹介に活用しました。

(2) 魅力あるセンターづくり

- ① 魅力ある事業の実施
 - 10/28に、地域住民にも参加を呼びかける「ふれあいまつり」を4年ぶりに開催し、約2,000名の参加者がありました。
- ② 会員互助会活動の充実強化への支援
 - ふれあいまつりで会員相互の親睦を目的に、会員互助会の発表・パネル展を実施しました。
- ③ 生活相談事業の実施
 - 介護相談 1名
 - 行政書士による遺言相談 19名
 - 税理士による確定申告相談 11名

(3) 入会者の確保

- ① 勧誘活動の強化
 - 会員への依頼 「会員による一人の入会者獲得運動」 62名入会
 - 福井新聞ぷりん欄に入会説明会の案内、入会キャンペーンの記事を掲載した。(22回)
 - ケーブルテレビ雑誌「けーぶるちゃん」に会員募集の記事を掲載した。
 - ポイント制度の周知
 - 退職者向けセミナーの開催
 - 福井商工会議所会員向けにチラシ配布
 - ハローワークでの就業相談会4月より毎週1回実施
相談者 187名
- ② 入会しやすい会費制度の検討

- 夫婦会員減免制度の実施 実績 80 名
- ③ 女性会員の入会促進
 - 女性限定入会説明会の実施 4 回 入会者 28 名
 - 女性セミナーの開催 4 回 参加者 119 名

(4) 退会者の抑制

- 未就業会員に対する会費減免制度の継続
対象者 302 名中 238 名入金

4. 組織活動の活性化

新型コロナウイルス感染症拡大のため滞っていた組織活動の活性化を図り、会員相互の親睦・交流の促進とつながりの強化に取り組みました。

(1) 地区組織の活性化

地区活動に対する支援を強化するとともに、ふれあいまつりのイベントをブロック毎で企画・運営する取組などを通して、会員相互の親睦・交流の促進と地域のつながりの強化に取り組みました。また、地区活動の重要性を共有するため、地区組織役員（ブロック長、地区長、地区班長）の研修会を実施しました。

- 地区活動への支援強化（6/28 ブロック長・地区長会議で説明）
 - 使いやすい地区活動支援制度
ボランティア活動参加への支援(1 人あたり 2,000 円)
- 地区組織役員の研修会の開催
 - ブロック長・地区長研修会（5/11）
 - ブロック長・副ブロック長研修会（11/15）

(2) 職群班活動の充実

職群班活動に対する支援を強化し、同じ職群で仕事をする仲間として、会員相互の親睦・交流の促進とつながりの強化に取り組むとともに、職群班内での研修等の充実を図り、事故防止と後継者の育成に取り組みました。

- 職群班活動への支援強化
 - 職群班会議・実務講習会の開催への支援
職群班 5 班（1,500 円/名）への支援

(3) イベント参加者へのポイント制度の実施

会員に対し、センターの各種イベントへの参加を促進するため、イベント参加者にポイントを付与する制度を引き続き実施しました。

- イベント参加者へのポイント付与制度の実施
 - 制度の周知 かわら版（4、7、9、11、1月号）・HP

5. 地域貢献と普及啓発活動

就業やボランティア活動を通して、地域から親しまれ、頼られるセンターづくりを目指すとともに、積極的なPR活動による認知度向上に取り組みました。

(1) 地域貢献

① 就業による地域貢献

公園や河川敷の草刈り、「シルバーママサービス」の託児事業や「おやこの広場 あ・の・ね」の地域支援事業、デイサービスをはじめとする介護関係業務、地域で困っている高齢者のサポート事業である「ワンコインサービス」や「えがおでサポート事業」など、就業を通じた地域貢献の拡大に取り組みました。

② 地域と密着したボランティア活動の実施

公共施設や公園の草刈り、空き缶拾いなど、地域に喜ばれるボランティア活動を実施しました。

- 「シルバーボランティアの日(10/21)」の活動
- [会員互助会] 花火の翌日の足羽川河川敷清掃

(2) 普及啓発活動

① 発刊物による普及啓発活動

シルバー人材センターの活動を広く市民に知ってもらうため、PRチラシ等を市内全世帯に配布または回覧するとともに、会報及び案内パンフレットやチラシ入りポケットティッシュを公民館に配架しました。

- 会報「あじさい」の自治会回覧 1回
- ケーブルTV雑誌「けーぶるちゃん」 5回
- 公民館への協力依頼

7月に理事、ブロック長、地区長、職員が全公民館を訪問
PRチラシ・会報・かわら版・案内パンフレット・チラシ入り
ポケットティッシュの配架を依頼

② ふれあいまつりの開催

シルバー人材センター事業を広くPRするため盛大に開催しました。

- ふれあいまつりの開催
 - ふれあいまつり
R5.10.28(土)・フェニックスプラザ 来場者約2,000名
 - 市民への普及啓発・パネル展
R5.11.7~9 ・アオッサ 来場者213名

6. 介護保険事業の充実

元気な高齢者等が、介護を必要とする立場にある高齢者に対して、長年生活した環境を維持しながら、安心して健やかに自立した生活が営めるために継続的な支援を

行いました。

【介護保険事業所の契約金額の推移】

(千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	R5目標
契約金額	80,446	77,217	76,219	69,090	81,500
訪問介護	25,845	18,614	18,812	16,839	21,700
通所介護	29,595	33,096	33,459	31,059	34,800
居宅支援	12,928	12,870	12,035	11,576	12,500
総合事業	12,078	12,637	11,914	9,616	12,500

(1) 居宅介護支援事業

① 新規利用者の開拓活動の実施

- ・ 地域包括支援センターとの連携を強化して、新規利用者（要支援・要介護）の拡大に取り組みました。
- ・ 会員やその家族からの介護相談により、新規利用者の拡大に取り組みました。

○ かわら版(4、7、9、1月)で会員等へ周知

【成果】 新規利用者 25名

② 職員の資質の向上

- ・ 職員は他の機関が開催する研修に積極的に参加して自己研鑽に取り組みました。

○ ケアマネージャ3名が令和5年度研修計画に基づき受講

- 中央北包括主催 事例検討会 他12回
- すこやかシルバー病院主催 研修会2回
- 福井県長寿福祉課主催 研修会1回
- 福井市地域包括ケア推進課主催 研修会8回
- 福井県介護支援専門員協会主催 研修会4回
- サービス事業所連絡会主催 研修会1回
- 介護支援専門員資格更新

(2) 訪問介護事業

① 広報活動・説明会による人材確保の推進

- ・ ヘルパー資格を有する新規入会員に、就業の呼びかけを行いました。
 - 資格を有する新規入会員4名に対して、業務内容を説明するとともに、就業の呼びかけを実施しました。
 - かわら版(4、7、9、1月)で就業の呼びかけを実施しました。
 - 11月7日 パネル展（アオッサ）でPRしました。

【成果】 新規就業会員 4名

② 新規利用者の開拓活動

新規利用者の拡大のため、地域包括支援センターや各居宅支援事業所

との連携強化に取り組みました。

【成果】連携強化による新規利用者 59名

③ 会員・職員の資質向上

- ・ 訪問介護の新規就業会員に対して、就業する際に個別に研修を実施しました。
 - 新規就業会員8名の研修 8回
- ・ 訪問介護の就業会員に対する個別支援や課題解消のため、四半期ごとに事務連絡会を行いました。

④ 利用者定着の強化

利用の定着を図るため、利用者に対し、誕生月に心のこもったメッセージを添えてプレゼントを進呈しました。

- 利用者の誕生月のプレゼント 102人
メッセージ付き手作り小物入れ・除菌ウェットティッシュ

(3) 通所介護事業

① スタッフ及び職員の資質の向上

- ・ 他団体が主催する研修に参加し、自己研鑽に取り組みました。
 - すこやかシルバー病院主催 研修会7回
 - デイサービス協議会主催 研修会3回
 - 厚生労働省主催 研修会1回

② 新規利用者の拡大

- ・ 新規利用者の拡大のため、ひだまりの家の活動チラシを作成しました。
- ・ パンフレットと活動チラシを、近隣の他事業所に配布しました。

③ 災害及び感染症予防対策の徹底

- ・ 就業会員及び職員に対し、研修・委員会を開催しました。

④ 地域との交流

- ・ 9月・3月に運営推進会議を開催し、地域との関わりを密にしました。

7. 財政の健全化

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により受注事業が減少し、それに伴い事務局運営の主な財源である事務費収入が減少し、厳しい財政状況となっていることから、財源確保と経費削減に取り組みました。

(1) 財源確保

① 事務費収入の増収

- 受注事業拡大による事務費収入の確保
- 厳密な見積書の作成と適正価格での受注

② 国・市からの補助金の確保

市の財政状況が厳しい中、市の補助金については、通常分を確保することができました。

- 国の補助金 33,500 千円 ※ 市の補助金を上限とする規定
- 市の補助金 33,500 千円

(2) 経費削減

① デジタル化の推進による業務の簡素化・効率化

会員への通知等を郵便からデジタルへと移行し、印刷封入作業及び郵便代等の経費削減をはじめ、経費全般の削減に取り組みました。

- PayPay 支払い導入
- シルバー人材センター会員専用システムの導入 登録者 448 名
- スマホ窓口の開催

8. 適格請求書等保存方式（インボイス制度）の導入への対応

令和 5 年 10 月に、消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入され、その対応について、次のとおり取り組みました。

(1) 消費税の財源の捻出

国において、シルバー人材センター及び会員が負担増とならない包括的契約方式の導入が検討され、その契約では、会員の配分金について、税務処理上、発注者と会員との契約と見なされ、会員への配分金に伴う消費税増税の負担は、発注者（個人や行政等を除く企業等の消費税納税義務者）の負担となります。

従って、包括的契約方式導入後は、インボイス導入に伴うシルバー人材センターの消費税増税の負担はなくなります。

このようなことから、**令和 7 年 4 月 1 日を目途に包括的契約方式を導入することを決定しました。**

また、包括的契約方式導入前の令和 6 年度分の消費税の負担額を確保するため、さらには、包括的契約方式移行後も継続発注されるよう、発注者の消費税負担分を値引きすることが不可欠であり、その財源を確保するため、**令和 6 年 4 月 1 日に料金改定を実施することを決定しました。**

令和 5 年度分の消費税は、シルバーの運営資金を財源として対応しました。

9. その他

(1) 新型コロナウイルス感染防止対策として、手指の消毒やうがいの励行等の感染防止対策の徹底に取り組みました。

(2) シルバー人材センターの活動を通して、SDGs の取り組みを推進しました。